

庁舎の位置に関する整理

1 現在の庁舎の位置

(1) 行政的位置

大田原市の市街地は、城下町として長い歴史と伝統を持ち、県北地域の商業の中心として発展してきた。市街地には古くからの社寺や商店、金融機関等の集積があるほか、内環状線沿いにデパート、スーパー、生活雑貨店、家電量販店、書店等が進出し、活力ある店舗経営が展開されている。また、中心部は中心市街地活性化に向け、「蔵」を活かした魅力ある商店街づくりがすすめられている。

現在の庁舎は昭和 38 年に竣工し、隣接地には総合文化会館、図書館等があるほか、近隣に国県等の行政機関が集中している。

・ 国関連施設

大田原税務署、宇都宮地方方法務局大田原支局、日本年金機構大田原年金事務所、宇都宮地方検察庁大田原支部、宇都宮地方裁判所大田原支部、栃木労働局大田原労働基準監督署、栃木労働局大田原公共職業安定所(ハローワーク大田原)、関東農政局栃木農政事務所

・ 県関連施設

栃木県那須庁舎、栃木県那須庁舎別館大田原土木事務所、栃木県那須農業振興事務所、栃木県県北健康福祉センター、大田原警察署

・ 広域関係

大田原地区広域消防組合、広域クリーンセンター大田原

・ その他

大田原赤十字病院、勤労者総合福祉センター、勤労青少年ホーム、大田原地域職業訓練センター、大田原市休日等急患診療所、大田原図書館、那須野が原ハーモニーホール



(2) 歴史的位置

大田原市は、源平合戦の英雄・那須与一の里として全国的にも広くその名を知られる。歴史は古く、平安時代には既に那須一族の荘園として現在の佐久山や福原に居城が設けられ、那須地方の拠点であった。室町時代後期になって、那須家の家臣大田原資清が大田原城を築城し、現在の市街地の基礎が造られ、江戸時代には、大田原氏一万一千石の城下町として、また奥州街道中の宿場町としても大いに賑わっていた。

明治 2 年 4 月に町村制が施行されて大田原町と称し、以来栃木県北の行政経済の中心地として発展。昭和 2 9 年 1 2 月に金田村、親園村と合併し市制を施行。その後、野崎村の分割合併を行い、昭和 3 0 年 4 月に西那須野町の一部を、同年 1 1 月には佐久山町の全域を編入、昭和 3 8 年 4 月に湯津上村の一部を編入し、平成の大合併により湯津上村、黒羽町と合併し、現在に至っている。

(参考) 人口重心(H 1 7 国勢調査)

大田原市 東経 140 度 03 分 05.40 秒 北緯 36 度 51 分 35.76 秒
大田原市若草 2 丁目地内